

中田かわら版 11月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会
制作：中田かわら版制作編集委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所
横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい<38>

中田社協「二十日会」事業部長

奥津 八重子さん (向根下)



二十日会とは、毎月 20 日に行われる昼食提供サービスである。高齢者が民生委員を通して参加することが出来る。1 月、8 月はお休みするが、20 日が日曜日であれ祭日であれその日は替えない。毎回 90 食以上の献立、食材調達、調理、片付けの忙しさは想像をはるかに超える。ボランティアさんや社協役員、民生委員が毎回 15 名以上も協力して成り立つ。食事を提供する人は全て 300 円の会費を払う。メニューは主菜、副菜、汁物、デザートなど、倍額出してもよそで食べることはできない程の豪華さなのだ。食後がまたいい。望月連合会長の面白ばなし。ほぐれたところで飯島社協会長や踊場ケアプラザの皆さんによる健康ばなしと軽い体操。更にその月生まれの人にはお花のプレゼント。場所に余裕があれば大正琴、舞踊、手品もやった。

奥津八重子さんはまさにその中心で猛烈に動き回る。そのパワーの秘密に迫ってみた。

昭和 16 年夏、横浜市浅間町に生まれる。折しも開戦中。母親の故郷福島県二本松に疎開する。安達太良山を仰ぎ見て、其の又上の青い空のもと、18 歳に帰浜するまで過す。祖父の趣味に影響を受け、幼小の頃より日本舞踊を習った。お師匠さんが教えにやってくる。やがて若扇流の名取となる。激しく動き回れるのは舞踊のお陰か。和服の似合う大和撫子が嫁いだ先は中田の名門だが農家の三男。電気釜さえ使ったこともないのに「かまど」で炊く事になってさあ大変。義弟さんも二人いて大わらわ。

家事と育児が落ち着いた頃、中学 3 年の息子さんから背中を押され、37 歳の八重子さんは勤めに出た。地元の大企業に 20 年程勤務。「お弁当を食べに行っていたようなもの」と謙遜する。50 歳近くから舞踊の稽古を再開した。退職後に中田地区社協に誘われて加入。平成 18 年から副事業部が承認されて、清水

事業部長の薦めも受けて二十日会の副事業部長になる。30 代の頃、横浜駅西口にある料理学校で学んだことがここでまた花開くことになった。誘われて好きな事をやり続けてきたと云うので、「困っている人を助けたい」、「喜んでくれれば嬉しい」なんて言うのだろうと思ったら、たった一言「社会と繋がってみたい」とだけ言った。嫁ぎ先で磨かれ、鍛えられた根性は、地元愛に溢れていた。「好きだから続けられるんです」とは、「中田が好きだから」とも聞えた。更生保護活動も受賞した。今、向



「まあおいしい、ウフフフ」

向根下百寿会会長も引き受けている。

八重子さんが中田の台地から眺める山は、安達太良山の 2 倍以上も高い富士の山だ。その視線の先は、平成の次の時代を捉えている。勿論、暮らしやすい中田のまちづくりを目指して。

(編集委員 松本 正)

～一人ひとりが CO₂ を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～



このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ
葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

■ 民生委員制度生まれて100年

民生・児童委員会長 石井マサ子さんに聞く



大正6年（1917年）、岡山県が貧困者救済として始めた「済生顧問」という制度が民生委員の前身といわれます。人々の自宅を訪ね貧困の原因を調べ行政につなぐパイプ役を担ってきました。現在は担い手不足や高齢化が課題になっていますが、家族や地域の支え合いが薄れるなか、民生・児童委員への期待はますます高まっています。地域で活躍されている石井マサ子さんに思いを聞いてみました。（宮田）



石井マサ子さん

昨年12月から泉区民生・児童委員協議会会長に就任されました。

石井 はい、大役ですが、皆さんの協力を得ながら行政、各機関とのパイプ役として活動したいと思います。私たちの仕事は地域の皆さまの理解と協力がないとできません。よろしくお願いいたします。

中田地区には何人の民生委員が活動していますか。

石井 現在36人おります。大きな自治会では2～3人のところや、1人で2つの自治会を担当している委員もいます。泉区全体では、現在184人が活動しています。

どうの方が委員になられていますか。

石井 家庭の主婦であったり、福祉関係にお勤めしたりいろいろですが、忙しいなか365日活動され、定例会に出席して下さることに頭が下がります。

定例会などはどうなっていますか。

石井 月に1回、会合をもって報告や情報交換など行っています。自由な雰囲気の中で委員同士の報告や発表は日々の活動に役立っています。1月と8月は定例会がなく、代わって研修会があります。研修会はいろいろ学ぶことが多く重要な会合です。

石井さんが日ごろ大切に思っていることは。

石井 チームワークですね。そこに信頼関係が生まれ、自由にものが言える。そのことが次の仕事に大変役立っていきます。

ところで民生・児童委員はどのようにして選出されてくるのでしょうか。

石井 そこが一番重要な点で、常日ごろ思っているのは中田の場合、各自治会の会長さんをはじめ選考委員の方々が最適者を選んでいただき、本当に感謝しているんです。中田の委員さんが地域から信頼されるのは、その自治会が誇る優れた人材を送り出してくれるからだと思っています。

最後に、地域の人に望むことは。

石井 私たちの仕事は、地域の人たちの理解と協力が不可欠です。心配事など、どんなことでも気軽に相談、連絡してください。これが次の解決へのステップにつながるからです。よろしくお願いいたします。

私たち住民として感謝の気持ちを忘れず、お互い支えあい協力していくことが改めて大切だということも分かりました。ありがとうございました。

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス！！